

ひらつかの年中行事 ②

地神講

地神（じじん）とは土地の神であり、農家から畑の神様として信仰されています。地神講（じじんこう）は地神のお祭り、年に2回、春と秋の社日（しゃにち）に行われます。社日とは春分・秋分にもっとも近い戊（つちのえ）の日のことです。今年は9月20日です。社日の観念は中国から伝来したもので、「社」は土地の守護神を意味し、社日はその祭りです。平塚ではこの日に土地の神、畑の神である地神を祭ります。



上吉沢台の地神講

地神講は近所の農家の家々に組織されます。講中

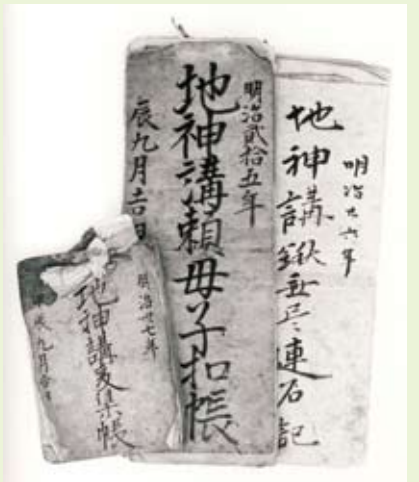


地神講の御表具

（こうじゅう）は一軒ずつ順番でヤドをつとめます。ヤドに当たった家は、オクザシキの床の間へ地神講の御表具（掛軸）を掛け、お灯明をともし、お線香をあげます。地神の祭祀対象はこの掛軸であって、ヤドの家に臨時的祭壇を設け、供物をあげてお祭りするのです。講中の人々はヤドの家が用意した食事をいただきながら、農作業の話などに花を咲かせます。

社日は「鍬で畑を掘ったりすると地神さんの頭を傷つける」といわれ、鍬を使った仕事をしてはいけないとされていました。この日は仕事を休んで地神に豊作を祈願し、感謝をする日だったのです。

四之宮通町の地神講では明治時代まで鍬無尽（くわむじん）を行っていました。6月から8月にかけて講中から麦を集め、これを俵に詰めて出荷しました。このお金で鍬を買い、秋の地神講のときに籤（くじ）を引き、当たった者に鍬一丁が配当されました。一度当たった者は籤から抜けるので、一巡するまでに全員が均等に当たるしくみになっていました。



四之宮通町地神講中の帳簿

上の帳簿は

「明治29年地神講鍬無尽連名記」

全国的にみると、地神講は神奈川県に多くみられました。平塚市でも農村部ではほぼ全域で地神講が行われていました。



下吉沢の地神塔

しかし、信仰心の低下、農家の減少、ヤドの負担などの事情で、現在も地神講を行っている集落はごくわずかになりました。

市内では江戸時代後期から明治時代にかけて地神塔が15基くらい造立されています。「地神社」などと文字を刻む石塔で、なかには山や川原の石をそのまま用いたようなものもあります。大地の神にふさわしく、自然の石を御神体に見立てたのではないかと思います。

（平塚市博物館学芸担当）

カー・デザインの歴史

—NISSAN 情熱と機能の美—

開催期日 平成21年10月3日（土）～平成21年11月29日（日）

会場 平塚市美術館

開館時間 9:30～17:00（入場は～16:30）

休館日 毎週月曜日※ただし10月12日、11月23日は開館し、翌日休館

観覧料 一般800（640）円、高大生500（400）円

※（ ）内は20名以上の団体料金

※平塚市民で、60歳以上の方、及び身体障害者手帳・療育手帳等の交付を受けた方と付添1名は無料

お問合せ先 0463-35-2111



コンセプトカー・ピボ



● 展覧会内容 ●

本展では日本のカー・デザインを年代を追って俯瞰し、欧米に学んでいた黎明期から日本発のデザインを世界に発信する現代に至るまでの変遷を、歴代の名車展示に加え、普段目にするのできないクレイモデル、スケールモデル、デザイン画とあわせて紹介します。

平塚市文化振興基金にご協力を!!

平塚市文化振興基金にご協力いただいた方（敬称略）（平成21年4月から6月）

■平塚吟詠連盟(4.19)



発行//平塚市（文化・交流課）

●お問い合わせ及び寄付金のお申し込み

〒254-0045 平塚市見附町15-1



TEL 0463-32-2235 FAX 0463-31-6466

ご意見ご感想などお聞かせください（今後の参考とさせていただきます） →ご意見等はEメールで（E-mail //bunkoh@city.hiratsuka.lg.jp）